



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月3日

上場会社名 プリマハム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2281 URL <http://www.primaham.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松井 鉄也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役第一管理本部長 (氏名) 前田 茂樹 (TEL) 03-6386-1800
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	232,059	10.1	8,114	14.9	8,611	12.8	3,768	△14.3
25年3月期第3四半期	210,760	0.9	7,063	3.9	7,634	8.0	4,396	△6.7

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 5,201百万円(△2.5%) 25年3月期第3四半期 5,334百万円(△3.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	16.84	—
25年3月期第3四半期	19.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	125,276	46,936	31.5
25年3月期	110,637	42,251	32.3

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 39,489百万円 25年3月期 35,736百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	2.00	2.00
26年3月期	—	—	—		
26年3月期(予想)				2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	285,000	3.4	7,400	1.9	7,500	△5.3	4,000	△8.2	17 87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P4「サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	224,392,998株	25年3月期	224,392,998株
26年3月期3Q	629,186株	25年3月期	600,169株
26年3月期3Q	223,784,251株	25年3月期3Q	223,809,306株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却を目指す経済政策や金融緩和策により為替相場の円安と株価の上昇が進むとともに、企業収益の回復、雇用情勢や個人消費の改善がみられ、景気回復にむけて堅調な動きを示してきましたが、消費税増税、TPP交渉、経常収支赤字化など景気の先行きに対する不安も懸念されます。

当業界におきましては、引き続き消費者の低価格志向による販売価格の低迷という厳しい事業環境下、ハム・ソーセージならびに加工食品の販売数量は比較的堅調に推移するものの、原材料・包装資材・ユーティリティコストなどの高騰による製造原価の上昇、食肉においては牛肉や豚肉に消費の改善がみられたものの、円安や産地高による輸入食肉のコストアップや国産食肉相場の高止まりは食肉仕入コストの上昇をもたらしました。

このような状況のなか、当社グループは「健康で豊かな食生活を創造するために安全・安心な商品を提供し、社会と食文化の発展に貢献していく」という基本的な考えのもと、諸施策に取り組み、収益の拡大に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は2,320億59百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益は81億14百万円（同14.9%増）、経常利益は86億11百万円（同12.8%増）、四半期純利益は37億68百万円（同14.3%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの管理区分の変更をしておりますので、下記の前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメントの区分に組み替えた数値との比較となっております。

<食肉事業本部>

食肉事業本部においては、消費回復を示すものの低価格商品が中心のマーケット展開と仕入コスト増という厳しい事業環境下、「ハーブ三元豚」、「味わい葡萄牛」などのオリジナルブランド商品の拡販や新規・深耕開拓に注力し、売上高、販売数量とも前期を上回る結果となりました。

この結果、売上高は770億76百万円（前年同期比28.4%増）となり、セグメント利益は2億84百万円（同61.5%減）となりました。

<加工食品事業本部>

(ハム・ソーセージ部門)

ハム・ソーセージ部門においては、引き続き「香薫あらびきポークウインナー」をはじめとする重点商品の拡販や世帯・生活スタイルの変化や利便性を考慮した新商品の投入を実施しました。また、得意先の新規開拓、プライベートブランド商品への取り組み、中食・外食向けの業務用商品についても開発・拡販に努めました。更に、販売促進面では、各種キャンペーンの展開、首都圏エリアにおけるテレビコマーシャルの放映などシェアアップに向けた施策を推進しました。

生産面においては円安による原材料、包装資材、ユーティリティコストのアップなど極めて厳しい状況のなか、引き続き省力化・効率化投資を積極的に行い、商品規格数の削減、製造コスト削減、生産性向上を具現化し、コスト競争力の強化に努めました。こうした生産・販売が一体となった取り組みの結果、ハム・ソーセージ部門においては売上高、販売数量とも前期を上回る実績となりました。

(加工食品部門)

加工食品部門におきましては、お客様のニーズに応えるべくコンシューマー商品、業務用商品とも売上、数量の拡大に努めました。円安による輸入商品の採算悪化、原材料高などによる製造コストの上昇など厳しい環境となりましたが、ハム・ソーセージ部門と同様にコスト削減、生産性向上に努めました。コンビニエンスストア向けのベンダー事業については引き続き店舗増と生産基盤の拡充、設備の高度化ならびに商品開発と確かな商品づくりを背景に収益を大きく伸ばしました。

以上の結果、加工食品事業本部（ハム・ソーセージ部門及び加工食品部門）においては、消費者の低価格志向、原材料高、および同業他社との競合激化という厳しい環境ではありましたが、売上高は1,547億54百万円（前年同期比2.8%増）となり、セグメント利益は77億82百万円（同20.3%増）となりました。

<その他>

その他事業（情報処理、商品検査等）の売上高は2億28百万円（前年同期比5.3%減）となり、セグメント利益は47百万円（前年同期は1億46百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ146億38百万円増加し1,252億76百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が106億82百万円、棚卸資産が14億48百万円、建設仮勘定が29億19百万円それぞれ増加したことによるものです。

(負債)

負債については、前連結会計年度末に比べ99億53百万円増加し783億40百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が80億5百万円、未払費用が21億22百万円それぞれ増加した一方、長期借入金（1年内返済予定を含む）が11億34百万円減少したことなどによるものです。

(純資産)

純資産については、前連結会計年度末に比べて、主に利益剰余金及び少数株主持分の増加により46億85百万円増加し、469億36百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて27億42百万円減少（前年同期は27億40百万円減少）し57億92百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

税金等調整前四半期純利益79億40百万円や減価償却費35億1百万円を計上し、また仕入債務も80億5百万円増加しましたが、売上債権の増加106億82百万円や棚卸資産の増加14億48百万円、法人税等の支払29億31百万円などにより、営業活動における資金は48億42百万円増加（前年同期は53億48百万円の増加）しました。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

主に生産設備更新および生産性向上、品質安定のための設備投資、連結子会社であるプライムデリカ株式会社の新設工場投資など有形固定資産の取得による支出58億23百万円や長期前払費用の取得による支出5億26百万円により投資活動による資金は72億31百万円減少（前年同期は40億40百万円の減少）しました。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

主に長期借入による収入27億90百万円および短期借入による収入16億9百万円があったものの、長期

借入金39億24百万円の返済および配当金4億46百万円の支払などにより財務活動における資金は4億47百万円減少（前年同期は40億77百万円の減少）しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、平成25年5月13日より変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,886	6,234
受取手形及び売掛金	29,705	40,388
商品及び製品	9,790	11,241
仕掛品	330	218
原材料及び貯蔵品	1,214	1,323
繰延税金資産	611	720
その他	2,827	3,361
貸倒引当金	△16	△8
流動資産合計	53,352	63,481
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,484	17,905
土地	18,562	18,437
その他(純額)	9,628	12,760
有形固定資産合計	46,675	49,104
無形固定資産	828	847
投資その他の資産		
投資有価証券	5,007	5,493
前払年金費用	1,985	3,017
その他	3,170	3,820
貸倒引当金	△381	△488
投資その他の資産合計	9,781	11,843
固定資産合計	57,285	61,794
資産合計	110,637	125,276

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,812	38,817
短期借入金	1,304	2,914
1年内返済予定の長期借入金	4,440	3,577
未払法人税等	2,116	2,471
賞与引当金	1,134	417
役員賞与引当金	30	0
その他	9,839	11,734
流動負債合計	49,677	59,933
固定負債		
社債	20	—
長期借入金	9,249	8,977
退職給付引当金	4,035	4,172
資産除去債務	110	111
その他	5,293	5,144
固定負債合計	18,708	18,406
負債合計	68,386	78,340
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,363	3,363
資本剰余金	3,964	3,964
利益剰余金	25,068	28,431
自己株式	△66	△72
株主資本合計	32,330	35,687
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,072	1,320
繰延ヘッジ損益	△8	△4
土地再評価差額金	2,396	2,355
為替換算調整勘定	△55	131
その他の包括利益累計額合計	3,405	3,802
少数株主持分	6,515	7,446
純資産合計	42,251	46,936
負債純資産合計	110,637	125,276

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	210,760	232,059
売上原価	174,462	194,757
売上総利益	36,297	37,302
販売費及び一般管理費	29,234	29,187
営業利益	7,063	8,114
営業外収益		
受取利息及び配当金	97	98
持分法による投資利益	115	6
事業分量配当金	126	153
受取返戻金	250	156
その他	355	416
営業外収益合計	945	831
営業外費用		
支払利息	200	157
貸倒引当金繰入額	112	107
その他	61	70
営業外費用合計	373	335
経常利益	7,634	8,611
特別利益		
固定資産売却益	216	6
投資有価証券売却益	10	10
受取補償金	498	252
その他	3	8
特別利益合計	728	278
特別損失		
固定資産売却損	22	15
固定資産除却損	105	71
減損損失	320	89
製品自主回収関連費用	—	680
その他	19	91
特別損失合計	468	949
税金等調整前四半期純利益	7,895	7,940
法人税等	2,678	3,233
少数株主損益調整前四半期純利益	5,216	4,706
少数株主利益	820	937
四半期純利益	4,396	3,768

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,216	4,706
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	255
繰延ヘッジ損益	△4	6
為替換算調整勘定	100	128
持分法適用会社に対する持分相当額	6	103
その他の包括利益合計	118	494
四半期包括利益	5,334	5,201
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,479	4,207
少数株主に係る四半期包括利益	855	993

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,895	7,940
減価償却費	3,167	3,501
減損損失	320	89
投資有価証券評価損益(△は益)	0	20
貸倒引当金の増減額(△は減少)	111	98
賞与引当金の増減額(△は減少)	△720	△745
退職給付引当金の増減額(△は減少)	218	136
前払年金費用の増減額(△は増加)	△858	△1,032
受取利息及び受取配当金	△97	△98
支払利息	200	157
投資有価証券売却損益(△は益)	△2	△10
持分法による投資損益(△は益)	△115	△6
有形固定資産売却損益(△は益)	△193	9
有形固定資産除却損	105	71
売上債権の増減額(△は増加)	△8,719	△10,682
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△419	△267
たな卸資産の増減額(△は増加)	△981	△1,448
仕入債務の増減額(△は減少)	5,534	8,005
その他の流動負債の増減額(△は減少)	1,464	2,113
未払消費税等の増減額(△は減少)	84	14
その他	△66	△22
小計	6,928	7,842
利息及び配当金の受取額	104	92
利息の支払額	△203	△160
法人税等の支払額	△1,480	△2,931
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,348	4,842

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,846	△5,823
有形固定資産の売却による収入	444	80
無形固定資産の取得による支出	△126	△236
資産除去債務の履行による支出	—	△41
投資有価証券の取得による支出	△526	△11
関係会社出資金の払込による支出	△118	△216
投資有価証券の売却による収入	44	29
貸付けによる支出	△107	△407
貸付金の回収による収入	12	5
敷金の差入による支出	△10	△67
敷金の回収による収入	21	57
定期預金の増減額 (△は増加)	26	△48
長期前払費用の取得による支出	△71	△526
関係会社株式の売却による収入	210	—
その他	8	△22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,040	△7,231
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,264	1,609
リース債務の返済による支出	△181	△281
長期借入れによる収入	1,000	2,790
長期借入金の返済による支出	△2,987	△3,924
社債の償還による支出	△63	△63
割賦債務の返済による支出	△70	△62
配当金の支払額	△445	△446
少数株主への配当金の支払額	△62	△62
自己株式の取得による支出	△3	△6
自己株式の売却による収入	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,077	△447
現金及び現金同等物に係る換算差額	29	93
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,740	△2,742
現金及び現金同等物の期首残高	10,745	8,535
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,004	5,792

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食肉事業 本部	加工食品 事業本部	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	60,020	150,497	210,518	241	210,760	—	210,760
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	22,373	64	22,437	42	22,480	△22,480	—
計	82,394	150,562	232,956	284	233,240	△22,480	210,760
セグメント利益又は損失(△)	740	6,469	7,209	△146	7,062	0	7,063

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理、商品検査事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「加工食品事業本部」セグメントにおいて320百万円の減損損失を計上しております。これは、遊休資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額したものです。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食肉事業 本部	加工食品 事業本部	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	77,076	154,754	231,830	228	232,059	—	232,059
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	23,150	42	23,192	44	23,236	△23,236	—
計	100,226	154,796	255,023	273	255,296	△23,236	232,059
セグメント利益	284	7,782	8,066	47	8,114	0	8,114

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理、商品検査事業等を含んでおります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度まで連結子会社であったプリマハム北海道販売(株)は同じく連結子会社であった北海道ミート販売(株)と札幌通商(株)を吸収合併し、同時にプリマハム(株)の北海道エリアの事業を引き継ぎ、北海道プリマハム(株)に社名変更しました。さらに同じく連結子会社であった東海プリマミート販売(株)は、プリマハム(株)の北陸エリアの事業を引き継ぎ、北陸プリマハム(株)に社名変更しました。上記グループ再編に伴う管理区分の変更により、従来「食肉事業本部」に含まれていた北海道ミート販売(株)と札幌通商(株)及び北海道エリアの食肉事業組織ならびに東海プリマミート販売(株)を「加工食品事業本部」の報告セグメントに含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「加工食品事業本部」セグメントにおいて89百万円の減損損失を計上しております。これは、遊休資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額したものです。